

2020年7月5日

全国大学国語教育学会

2020年度 学会通信 第1号

全国大学国語教育学会事務局

◆2020年春期大会(オンライン)／2020年秋期大会(オンライン)実行委員について

この度理事長の指名により、大会担当常任理事，総務担当常任理事，研究部門，幹事でオンライン学会実行委員を組織いたしました。初めての試みで至らない点も多々あるとは思いますが、皆様方のご協力で、なんとか運営したいと考えております。お力添えをどうぞよろしくお願いいたします。

実行委員長 植山俊宏（京都教育大学）

実行委員 長田友紀（筑波大学）

勝田光（東洋大学）

勘米良祐太（名古屋女子大学）

古賀洋一（島根県立大学）

澤田英輔（軽井沢風越学園）

住田勝（大阪教育大学）

寺田守（京都教育大学）

富安慎吾（島根大学）

中井悠加（島根県立大学）

羽田潤（兵庫教育大学）

細川太輔（東京学芸大学）

第138回 春期大会（オンライン開催）について

◆第138回全国大学国語教育学会 2020年春期大会(オンライン)のご案内(第2次)

2020年春期大会（オンライン） 実行委員長 植山俊宏（京都教育大学）

予定されていましたが第138回全国大学国語教育学会島根大会は、コロナウィルス感染予防のための措置として中止されることが先に決定いたしました。それに代わる学会の事業といたしまして、「第138回 全国大学国語教育学会 2020年春期大会（オンライン）」を企画することになりました。標記の通り、当学会始まって以来の、「オンライン学会」への取り組みとなります。この取り組みは、秋に予定されております「第139回 全国大学国語教育学会 秋期大会（オンライン）」のための様々な「試行」の意味もあります。対面での大規模な学会の開催が困難な中で、私どもが国語教育学の専門学会としてどのように学術的発信ができるのか、また国語教育実践者と共に歩む実践研究の場としてどのような取り組みの場となりうるのかを、様々な形で挑戦して参りたいと存じます。

●開催要領

○自由研究発表

できうる限り会員のみなさまの学術研究や交流の場を途切れさせないために、自由研究発表に対するメールでの質疑応答の機会を設けることになりました。ただし、今回は試行のため、発表者の中で希望された方のみ、会員の皆様からのご質問を受け付けることになりました。詳細は以下をご覧ください。

1) 発表要旨集（PDF版）の閲覧方法

全発表者分の発表要旨集（PDF版）をダウンロードするためのURLは次の通りです。このURLにアクセスいただき、IDとパスワードを入力するとPDFファイルをダウンロードできます。

なお、今回の PDF 版要旨集は会員の皆様のみでの公開とさせていただきます。メールアドレスなどの個人情報も掲載されておりますので、会員外の方への配布や外部への公開はおやめください（そのような必要がある方は以下の 3）をご覧ください）。

<http://conference.wdc-jp.com/jtsj/138/index.html>

※右の二次元バーコードを読み取ってください。

ID：（郵送版学会通信のみで公開）

パスワード：（郵送版学会通信のみで公開）

ダウンロード期間：2020年8月1日～9月30日（予定）



## 2) 質疑応答の方法（質疑応答の期限：2020年9月30日まで）

要旨集（PDF 版）の目次ページを開けると発表題目と発表者名が一覧できます。発表者名の下にメールアドレスが表示されている場合は、このメールアドレスを通して発表者と質疑応答を直接行うことができます。質問のある方は、質疑応答の期限内で、メールにて質問を行ってください。その際、ご所属やお名前などを必ず明記してください。

なお、発表者名にメールアドレスが掲載されていない場合は、発表者の側で希望されていないため質疑を行うことはできません。ご了承ください。

## 3) 発表要旨集（冊子体、紙版）の購入方法および J-Stage での公開

上記 1) の PDF 版以外に、冊子体（紙版）の発表要旨集をご希望の方には実費 3,000 円（送料込み）で販売いたしますので、学会事務局までご連絡ください。なおこの冊子体（紙版）の発表要旨集には質疑応答のための情報（メールアドレスなど）は掲載されません。

要旨集（PDF 版）の正式なものは J-Stage での公開となります。公開時期は半年後程度を目処にしておりますが、その際にはこの冊子体（紙版）に基づくものが公開されます（質疑応答のための情報は掲載されません）

## ○課題研究発表

「国語教育の多層性②:国語教育研究が視野の外においてきたヒト・コト・モノ」

課題研究発表については、学会員並びに、当学会の取り組みに興味関心を持っていただいている方々の、できるだけ多くの議論への参加を可能にするために、Zoom ウェビナーを利用したオンラインパネルディスカッションとして開催することにいたしました。

**日時:2020年8月29日(土)13時～17時**

参加申し込みについて：参加申し込みの方法につきましては、学会ホームページを通して7月中に告知いたします。参加費用は無料です。

この課題研究は、「国語教育の多層性」というメインテーマを掲げて、仙台大会において「改正入管法を受けて、子どもたちの言語教育をどう保証していくか」と題して行った課題研究に連なる二回目の課題研究の取り組みです。一回目のテーマが、今日言語教育の場に存在する、日本語を母語としないがゆえになんらかの支援を必要とする子どもたちの存在に光を当て、どのような言語教育としてのとりわけ国語教育としての取り組みが求められているのか、ということに関して重要な議論が交わされました。今回「春期大会（オンライン）」においては、「多層性」のもう一つの側面として、発達特性上のさまざまなニーズを抱え、それが特定の言語学習の遂行に多くの場合「つまずき」として発現することになる子どもたちの言語学習をめぐる問題領域に光を当てます。それは、一回目の課題研究が、「日本語教育学」の問題領域として取り上げられる

ことの多いテーマを、国語教育学としてきちんと位置付け、正面から取り組むための視座を共有することをねらっていたことと相即して、従来「特別支援教育研究」の領域、研究者、実践者の問題へと「丸投げ」していたことを、国語教育研究の問題として見据えていくことを目的としたものです。

コーディネーターや登壇者については以下のリストを見てください。

---

コーディネーター 住田勝(大阪教育大学)

登壇者 本渡葵(新見公立大学)

「児童心理治療施設併設校での言葉にかかわる教育:A校の事例」

稲田八穂(筑紫学園大学)

「一人一人の多様な読みを共感する学び合いの授業づくり:

通常学級の支援の必要な子どもへの手立て」

三盃亜美(筑波大学)

「発達性読み書き障害のある子どもへの認知特性に応じた個別の文字指導から

一斉指導への示唆」

---

本渡会員の研究フィールドは、通常の教室にいることが困難な子どもたちの学びや生活の場である「児童心理治療施設」です。私たちが普段観察し、関与し、学習指導のあり方について議論している、「今、ここ」に存在していない子どもたちが、その特別に設えられた「場」で、どのような言語学習を行っているのか、という問題に光を当てる貴重な研究です。

一方、稲田会員は、通常学級に在籍する特別なニーズを持つ、さまざまな学習参加上の課題を抱えている子どもたちが、「今、ここ」で動いている国語学習に豊かに参加していくためのさまざまな実践研究的取り組みを長年続けてこられました。その意味で、教室に存在している、さまざまなニーズを抱えた子どもたちとともに、教材開発や指導法開発に取り組むための基本的な問題について、分析考察を提供していただけるものと存じます。

三人目の登壇者には、研究部門の総意として、特別支援教育研究の領域から、つまり私ども国語教育学会の外におられ、かつ、言語の学びを問題にされている研究者の方に立っていただきたいと考えていました。三盃先生は、読み書きの活動につまずきを持ついわゆる「ディスレクシア」の研究に取り組んでおられる方です。実験心理学的な手堅い実証研究での成果を挙げられているだけではなく、NPO 活動や、実践現場の先生方との共同研究を通して、極めて臨床的な研究活動を重ねておられます。

私ども国語教育学研究の内部で議論されていることと、例えば特別支援教育研究で常識的な知見とされていることが、議論の場に立った瞬間、大きくずれていたり、互いに違うものを見ていたりすることが予想されます。今回の課題研究テーマ「国語教育研究が視野の外においてきたヒト・コト・モノ」は、まさに、私どもが、研究対象として見ようとしてきた事象の自明性を相対化し、かつ、教室における子どもたちが直面している課題に「ともに」責任を負うべき私たちが、共通の基盤を持ちうるのかどうか、に挑戦するためにも、三盃先生のご登壇には大きな意味があるかと存じます。

・時程

時刻	内容
13:00-13:10	開会行事
13:10-14:40	基調提案（コーディネーター・登壇者3名）
14:40-15:30	休憩
15:30-16:55	研究協議
16:55-17:00	閉会行事

## 第139回 秋期大会（オンライン開催）について

◆第139回全国大学国語教育学会 2020年秋期大会（オンライン）のご案内（第1次）

2020年秋期大会（オンライン） 実行委員長 植山俊宏（京都教育大学）

◆第139回全国大学国語教育学会 2020年秋期大会（オンライン）

■開催日：令和2（2020）年 10月31日（土）、11月1日（日）

■会場：オンライン（Zoom等）

◆大会2日間の概要（予定）

<第1日目 10月31日（土）>

○AM 公開講座Ⅰ

国語科における「論理」教育の射程～「論理国語」の実施も見据えながら～

第2回「学習者の論理」をどのように育てるのか

コーディネーター 寺田守（京都教育大学）

間瀬茂夫（広島大学）

荻原伸（鳥取県立鳥取東高等学校）

辻村重子（八幡市立男山東中学校）

※島根大会で行う予定の公開講座を秋期大会（オンライン）で行います。

○PM 自由研究発表

<第2日目 11月1日（日）>

○AM 課題研究発表

国語教育の多層性③

リテラシー観の変化は国語科授業をどのように変えるのか？

—情報リテラシーとメディア・リテラシーとマルチモーダル・リテラシー—

コーディネーター 羽田潤（兵庫教育大学）

砂川誠司（愛知教育大学）

植田恭子（都留文科大学）

松岡礼子（大阪教育大学）

○PM 院生・若手交流企画

自由研究発表

公開講座Ⅱ 詩を書くことを教える①

学会参加申し込み、発表申し込み及び要旨投稿は、8月10日(月)からWeb上で受け付ける予定です。以下をよく読んでからお申し込みいただきますようお願い致します。

## ◆自由研究発表の募集

### (1)募集区分

#### ○自由研究発表

秋期大会(オンライン)は、自由研究発表は「紙面発表」「Zoom発表」の二種類の方法で実施します。発表を希望する方は、いずれの方法を希望するのかを、発表申し込み時に申請してください。

#### 紙面発表

- ・4ページの発表要旨をもって、紙面上で研究発表する方法です。
- ・提出された発表要旨をオンライン上の特設サイトに掲載し、この発表要旨に対して、質疑応答システムを用いて質疑応答を行うことができます。質疑応答の期間は大会当日から一週間程度を設定します。
- ・発表要旨をもって研究発表とするため、当日資料はありません。

#### Zoom発表

- ・Web会議システムZoomを使用して、Web上で研究発表をする方法です。発表者はPC等でZoomを操作して、同時双方向で発表を行います。
- ・通常の対面学会と同じく、司会者が存在し、1会場6人程度の発表者を設定します。発表時間は20分、質疑応答は10分です。Zoomの準備時間は発表時間に含まれます(進行の都合上、発表時間の延長はできません)。
- ・発表資料は、オンライン上の特設サイトに掲載された4ページの発表要旨に加えて、スライドなどを画面共有で提示することができます。当日資料の配付はサポートいたしません。
- ・発表者へのZoomの技術的支援はありませんので、事前に基本的な使い方について習熟しておいてください。
- ・Zoom発表は60本程度を上限とし、先着順とします。申し込みが60本を越えた場合、紙面発表となる場合があります。

#### ○ラウンドテーブル

- ・オンライン大会ではラウンドテーブルは開催しません。

### (2)申込期間(※8月10日(月)から受付開始予定)

**発表申し込み締切      8月24日(月)**

**要旨投稿締切      9月30日(水)**

### (3)申し込み上のご注意

#### ※発表資格について

自由研究発表の発表申込者(筆頭発表者)及び共同発表者は、以下のように会員資格を有し、年会費を納入していることが条件となります。お手続きがお済みでない方は、お早めにお問い合わせ致します。

※発表のための新規入会は、8月5日(水)までに入会申請を行い、8月21日(金)までに年会費のご納入まで完了してください。

※現在会員の方は、大会開催年度(令和2年度)までの年会費を、発表申込締切日までに必ずご納入ください。ご納入いただけない場合、発表が不採択となります。

※締切後の発表申し込みは、一切受け付けません。

※自由研究発表の発表日指定はできません。

※発表申し込み締切後は、題目・発表者等の変更はできません(申し込み期間内は、ご自身でシステムから修正可能です)。発表申し込みの登録情報と要旨原稿の記載情報は、必ず一致させてください。やむを得ず変更があった場合は、必ず大会ヘルプデスクへメールでご連絡ください。

※お申し込みは、Webでのみ受け付けます。どうしてもWebでの申し込みが難しい場合に限り、別のお申し込み方法をご案内しますので、大会ヘルプデスクまでお問い合わせください。

#### (4)発表申し込み時の入力項目について

##### ●自由研究発表 登録時の入力項目

※お申し込みは、筆頭発表者が行ってください。

- ・発表区分(自由研究発表を選択してください)
- ・題目・副題
- ・筆頭発表者の氏名(ふりがな)、所属、共同発表者の氏名(ふりがな)、所属(いない場合は不要)、発表形式(紙面発表・Zoom発表)、印刷要旨集の希望
- ・オンライン大会のため発表要旨はPDFで大会特設ページに公開します。印刷された要旨集を希望される方は実費(4000円・送料込み)でお求めいただけます。申し込み時に選択してください。
- ・要旨集は大会終了半年後以降にJ-stageにアップする予定です。

#### (5)要旨原稿の投稿について

※発表要旨のテンプレートは、学会ホームページ(<http://www.gakkai.ac/JTSJ/>)の

「テンプレート集」に掲載してあります。大会発表要旨集には、A4・白黒で掲載されます。

※自由研究発表 :A4 4ページ以内

※PDF形式で申込システムよりご投稿ください。PDF変換はWord等の機能を用いてください。

※投稿画面にPDF変換の装置を設置していますが、PDFに変換後の原稿をよくご確認のうえ、ご投稿ください。一部ファイルの作成環境により文字化け等が発生することがあります。

※発表申し込みを完了すると、投稿ボタンが押せるようになります。

#### ◆参加申込について

##### 【申込諸費用(予定)】

学会参加費(総会資料を併せてご参照ください)

(会 員) 5,000円

(学生会員) 3,000円

(非 会 員) 6,000円

※発表申し込みと同様、受付は8月10日(月)からシステムにて行う予定です。

※お支払方法は、郵便振替とクレジットカード決済のいずれかをご選択ください。郵便振替の場合の申込諸費用のお振込先は、申し込み完了後にシステムから配信される完了通知メールに記載されています。また郵便振替の申し込みは10月1日(水)まで、入金は10月2日(木)まででお願いいたします。

※発表申し込みと参加申し込みは別となります。発表者は必ず参加申し込みを行ってください。

※申し込み参加のための新規入会は、9月30日(水)までに入会申請を行い、10月16日(金)まで

に年会費のご納入を完了してください。ご入会にはお時間がかかりますのでお早めのお手続きにご協力をお願い致します。

### ●申し込み方法について(共通)

1)大会申込システムのログインページにアクセスしてください。

【大会申込システム】<https://iap-jp.org/jtsj/conf/member/login>

※受付開始は8月10日(月)の予定です。

受付開始前はアクセスしても受付期間外のメッセージが表示されます。

※学会ホームページにもURLが記載されています。

2)ログインIDの取得とログイン

①ログインIDを取得します。登録したメールアドレスに、ログインIDが記載された完了通知メールが配信されます。

②ログインIDと登録したメールアドレスを入力してシステムへログインしてください。

3)申込者情報の登録

ログイン後、申込者情報を登録してください。会員としてお申しいただく際には、会員番号が必要となります。

※会員番号は、学会から会員の皆様宛に送られる封筒の宛名に記載されています。

4)事前参加申込・発表申込・要旨投稿

申込者情報の登録後、事前参加申込、自由研究発表の発表申込、要旨投稿が可能となります。申込が完了すると、登録したメールアドレスに申込完了通知メールが配信されますのでご確認ください。

### ●お問い合わせ先

※参加・発表申込・原稿投稿・諸費用に関すること

全国大学国語教育学会大会ヘルプデスク

E-mail:jtsj-desk@bunken.co.jp FAX:03-5227-8632

〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター

※年会費に関すること

全国大学国語教育学会事務局

E-mail:jtsj-post@bunken.co.jp TEL:03-6824-9377 FAX:03-5227-8631

〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター

※春期大会(オンライン)／秋期大会(オンライン)に関すること

E-mail:taisuke@u-gakugei.ac.jp TEL:042-329-7250(細川研究室直通)

〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1

東京学芸大学 細川太輔 宛

\*問い合わせはEメールでお願いいたします。

## ◆『国語科教育』第89集 投稿募集について

第89集編集委員会

1. 投稿論文は、2020年8月1日(土)～8月31日(月) (消印有効)の期間に受け付けます。
2. 原稿の送付先は下記の通りです。  
〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5  
全国大学国語教育学会事務局  
電話：03-5389-9377
3. 封書にはかならず「**投稿原稿在中**」と朱書き書留で郵送してください。
4. 以下の『国語科教育』投稿要領に従ってください。  
(投稿要領が、一部修正されています。特に、項目7(1)下線部のキーワード記載の点に関し、ご留意ください。)

### 『国語科教育』投稿要領(令和2年6月28日改訂)

投稿論文の内容および体裁について

1. 論文原稿は未発表のものに限る。ただし、口頭発表、プリント類の場合はこの限りではない。  
なお、他誌に掲載された自らを著者とする論文と著しく重複する内容の論文を、投稿してはならない。
  2. 重複投稿の禁止  
本誌『国語科教育』に投稿された論文等はその採否が決定するまで国内・国外を問わず他誌に投稿することはできない。また、他誌に投稿中のものは受付けない。
  3. 募集枠は、「研究論文」「実践論文」「資料」の三つのカテゴリーとする。どの枠に応募したものであるかが分かるように、そのことを題名の前に明記する。ただし、採択の枠付けに関しては、編集委員会の最終的な判断によるものとする。  
研究論文：独創的な知見を含む学術研究。  
実践論文：国語科の先行実践をふまえて、新たな実践の方向性や意義・価値について学術的な根拠に基づいて論じたもの。  
資 料：国語科教育学に関する基礎的データや国語教育の実践・研究に関する情報を提示したもの。
  4. 連続掲載は、原則として2回までとする。
  5. 論文原稿は、縦書きまたは横書きで、原則としてパソコンを使用する。
  6. 編集委員会において特に枚数を指定するもの以外の論文原稿は、原則として400字詰原稿用紙ほぼ40枚(8ページ分)以内とし、1ページあたりの字数・行数を次のようにする。
    - (1) 横書きの場合  
23字×44行×2段(1ページ2,024字、ただし最初の1ページは、題目・氏名のスペースとして7行2段をとる。)
    - (2) 縦書きの場合  
33字×31行×2段(1ページ2,046字、ただし最初の1ページは、題目・氏名のスペースとして7行2段をとる。)
- \* 学会ホームページに記載している、投稿原稿用のテンプレートを使用すること。
  - \* 引用および注の文字ポイントは本文と同じとする。ただし、図表についてはこの限りではない。
  - \* 図表は本文の中に入れて計算し、本文内に該当箇所を明示することとし、縮小率は8割以上とする。
7. 原稿は以下の体裁で整えること。
    - (1) 論文本体
- \* 表題の下に、投稿論文に関わるキーワードを記すこと。



\* 論文には氏名・所属等，書き手を特定できる情報は書かないこと。

(2) 注(ただし，引用のための注はつけない)

(3) 参考文献

\* 論文本体や注，参考文献に「拙稿」「拙著」など，投稿者名が判明するような記述を行わないこと。

#### 8. 引用文献の記載について

(1) 引用文献の記載方法は，原則として APA スタイルに準拠する。

(2) 本文中における引用の記載方法は，次の通りである。

① 著者が一人の場合は，著者の姓および発行年を本文中に挿入する。

…(高橋，2010) …(Black,1988)。高橋(2010)は，…。Black(1988)は，…。

② 著者が二人の場合は，両方の著者の姓および発行年を本文中に挿入する。

…(高橋・鈴木，2012)。…(Black & White,1992)。高橋・鈴木(2012)は，…。Black & White(1988)は，…。

③ 同一刊行年の文献は，刊行順に a, b, c, を刊行年に付し区別する。

佐藤学(1999a)『教育時評 1997-1999』世織書房

佐藤学(1999b)『学びの快樂 ダイアローグへ』世織書房

(3) 論文末に，日本語文献と非日本語文献とに分けて参考文献を記載する。日本語文献は著者の姓の五十音順に，非日本語文献は著者の姓のアルファベット順に参考文献を掲載する。翻訳文献は，非日本語文献として記載する。記載方法の例は，次の通りである。

① 学術誌の論文

石井庄司(1953)「国語教育学の完成を期して」『国語科教育』第2号，1-4./Posner, G. J., Strike, K. A., Hewson, P. W., & Gertzog, W. A. (1982). Accommodation of a scientific conception: Towards a theory of conceptual change. *Science Education*, 66 (2), 211-227./ Wertsch, J. V., (1991). *Voices of the Mind: A sociocultural Approach to Mediated Action*, Havester Wheatsheaf./ 田島信元他訳(1995)『心の声—媒介された行為への社会文化的アプローチ』福村出版

② 書籍

全国大学国語教育学会編著(2013)『国語科教育学研究の成果と展望 II』学芸図書

大槻和夫(1997)「国語科教師における国語教育学の目的と体系」全国大学国語教育学会編，『国語教育学の建設1 国語科教師教育の課題』明治図書，1-104.

Fraser, B. J., Tobin, K. G., & McRobbie, C. J. (Eds.). (2012). *Second international handbook of science education*. Dordrecht, Netherlands: Springer. または

Fraser, B. J., Tobin, K. G., & McRobbie, C. J. (Eds.). (2012). *Second International Handbook of Science Education*. Dordrecht, Netherlands: Springer.

③ オンラインからの引用

文部科学省(2011)「言語活動の充実に関する指導事例集【小学校版】」

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/gengo/1301088.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/gengo/1301088.htm) (○年○月○日確認)

Degelman, D., & Harris, M. L. (2000). *APA style essentials*. Retrieved May 18, 2005, from Vanguard University, Department of Psychology Web site:[http://www.vanguard.edu/faculty/ddegelman/index.cfm?doc\\_id=796](http://www.vanguard.edu/faculty/ddegelman/index.cfm?doc_id=796)

(4) 本文中の文献ページ数の記載は，以下のいずれかの方法に従う。

① 発行年の後に「:」(コロン)を入れて「著者名(発行年:ページ)」とする

例: 石井庄司(1957:2)は「○○○」と述べている。

② 引用の最後にページ数を明示する。

例: 石井庄司(1957)は「○○○」(p.2)と述べている。

③ 注の形式(脚注，または，巻末注)で，参照する文献のページ数を明示する。

例: 石井庄司(1957)は「○○○」1と述べている。注1. 石井庄司(1957) p.2

## 原稿を投稿するにあたって

9. 投稿に際しては以下のものを同封する。
- (1) 電子媒体 (OS 名と作成ソフト名を記載すること。USB メモリまたは SD カードによる提出が望ましい。)
  - (2) 打ち出し原稿 4 部 (複写でよい)
  - (3) 投稿者情報 (A 4 一枚に、氏名、所属、原稿発送年月日、連絡先 (電話番号, E メールアドレス, 住所), 論文の表題, 希望する募集枠のカテゴリーを記載したもの)  
なお、提出物は原則として返却しない。
10. 更新された学会ホームページ上のテンプレートを使うこと。投稿にあたっては、特に、規定通りの字数 (横書 の場合, 23 字×44 行×2 段, 縦書きの場合 33 字×31 行×2 段) となっているか、確認の上, 作成, 投稿をされたい。
11. 郵送に際しては書留で送付すること。また封書には氏名, 所属, 連絡先を記載し, 表には「投稿原稿在中」と朱書すること。
12. 投稿論文は, 上期においては 8 月 1 日から 8 月 31 日までの期間, 下期においては 3 月 1 日から 3 月 31 日までの期間に受け付けるものとする。
13. 著作権について  
本誌『国語科教育』に掲載された著作物 (電子媒体への変換による利用も含む) の複製権, 公衆送信権, 翻訳・翻案権, 二次的著作物利用権, 譲渡権等は本学会に譲渡されたものとする。著作者自身のこれらの権利を拘束するものではないが, 再利用する場合は事前に本学会宛に連絡をする。
14. 投稿資格について  
投稿にあたっては著者全員が会員資格を有し, 当該年度までの年会費を納入していること。

### ◆学会発表および学会誌投稿の資格について

全国大学国語教育学会事務局

年 2 回の学会および学会誌刊行は学会活動として行われていますので, 自由研究発表・ラウンドテーブルへのお申込み, 学会誌への投稿は会員資格を必要とします。新しく入会を希望される方は, 入会までに一定の期間を要するため (常任理事会での承認・当該年度の会費納入), 発表申込みおよび投稿の時期にお気をつけください。また, 現会員の皆様におかれましては, 年会費を納入済みであることが条件となりますので, ご留意ください。

電話 03-5389-9377 jtsj-post@bunken.co.jp

### ◆2020 年度新入会員 (受付順・敬称略)

渡邊 本樹, 石山 貴裕, 数井 千春, 大山 紗季, 波賀野 隆之, 左近 妙子, 渡邊 雅子, 大池 公紀, 牧 周民, 保坂 由紀子, 小林 祐美, 鈴木 公貴, 金 志唯, 新地 真帆, 光嶋 美香, 畝岡 睦美, 小寄 麻由, 小林 正, 足立 詠美, 遠藤 可奈子, 佐藤 宗大, 小阪 昌子, 吉川 七菜子, 金子 結美, 小林 賢太郎, 八木 翔平, 南 咲貴子, CHEN XIN, 松崎 祐太, 川崎 瑛央, 籬 泰斗, 中野 舞香, 堀 晴華, 中島 幹太, 保坂 実穂, 吾孫子 雄希, 嶋田 桃佳, 重田 和希, 太田 悠斗, 毛利田 奈津子, 伊井 健, 橋本 祐樹, 岩船 尚貴

(※万一氏名に誤記がありましたら, お手数ですが学会事務局あてご連絡いただきますようお願いいたします。次号にてお詫びして訂正いたします)